

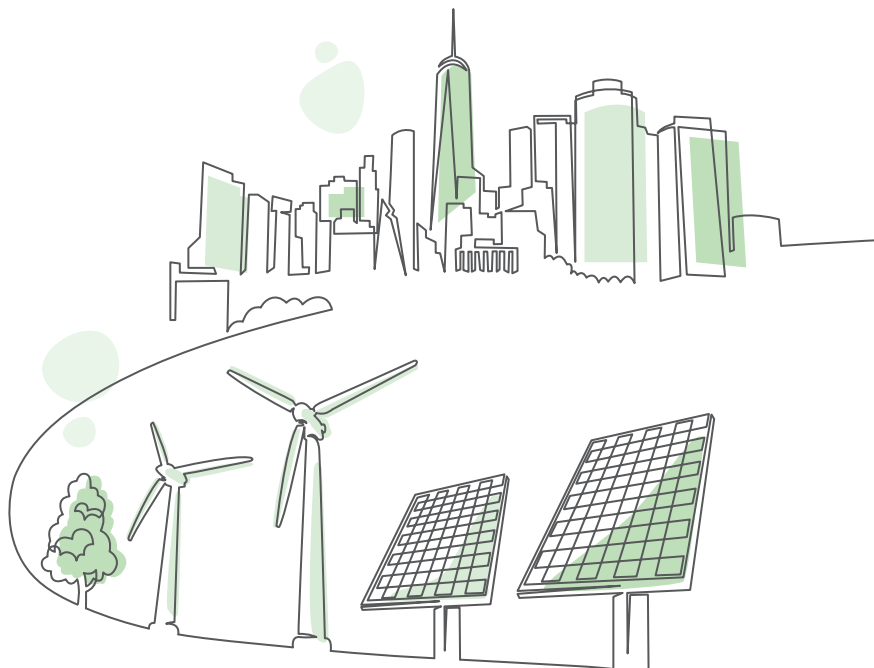
FDK株式会社

FDK

第95期

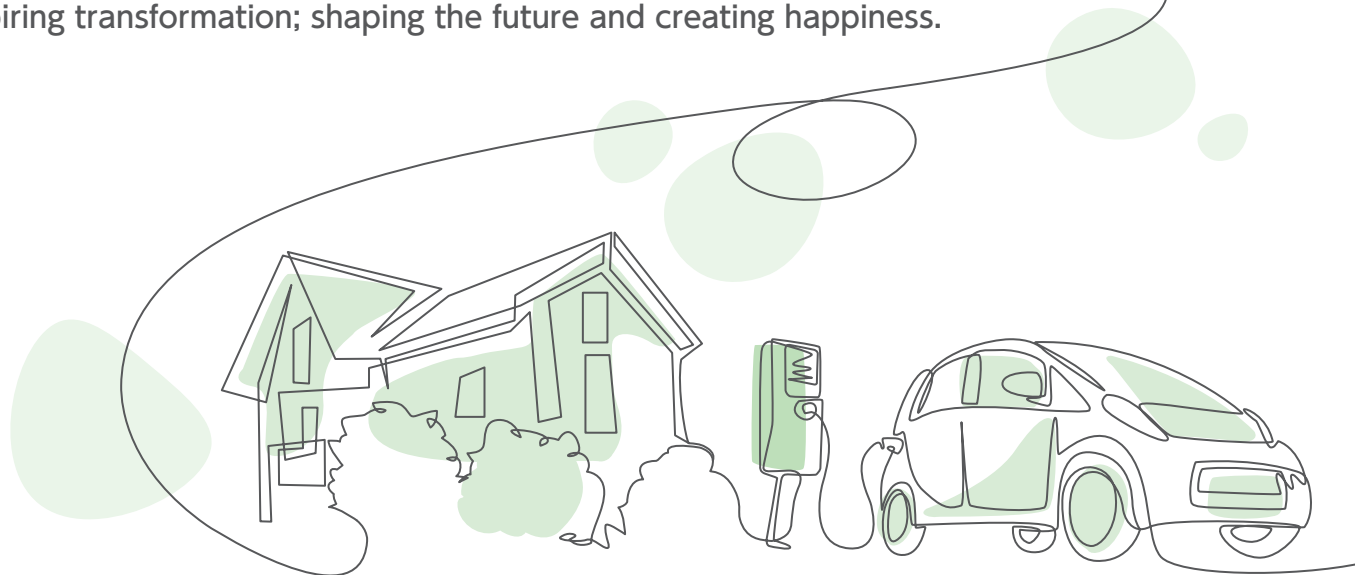
中間報告書

2023年4月1日から2023年9月30日まで



進化に挑戦 輝く未来と笑顔のために

Inspiring transformation; shaping the future and creating happiness.



株主の皆様へ

株主の皆様におかれましては、日頃より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。
ここに当社グループ第95期（2023年4月1日から2023年9月30日まで）の決算をご報告するにあたり、一言ご挨拶申し上げます。

当中間期は、中期事業計画「R2」で柱に掲げた「主力ビジネスの利益ある成長の加速」「新規ビジネスの始動と開拓に向けた取り組み」の達成に向け、技術VEによるコスト削減や徹底的な経費削減を推し進めることで外部環境の悪化などの不測の事態に対応できるレジリエンスを強化するとともに、新規ビジネスの獲得およびさらなる深耕開拓を行ない、拡販活動に注力いたしました。また、製品面においてはニッケル水素電池にて、本年9月に国内生産による高品質という強みを生かした電池の生産を1991年10月から続け、累計生産数50億個を達成いたしました。さらに電子事業につきましては、これまでの電子部品製造の豊富な経験を活かし、「Bluetooth® Low Energyモジュール」の量産体制を構築し、国内顧客向けのサンプル出荷を開始いたしました。

当中間期の経営成績につきましては、売上高はリチウム電池のセキュリティ・スマートメータ用途向けの増加や設備関連ビジネスでの増加があったものの、ニッケル水素電池の国内市販用途向けおよび海外工業用途向けの売上減、電子事業の各種モジュールの売上減などにより前年同期に比べ14億87百万円減の302億46百万円となりました。営業利益は販売価格の見直しと経費削減を上回るニッケル水素電池の売上減や原材料価格の高騰、電子事業の売上減の影響により前年同期に比べ7億47百万円減の76百万円の損失となりました。経常利益は1億95百万円の為替差益を営業外収益として計上したものの、前年同期に比べ7億3百万円減少の1億36百万円となり、親会社株主に帰属する中間純利益は減損損失の計上や法人税等の計上により、35百万円の損失（前年同期は5億83百万円の親会社株主に帰属する中間純利益）となりましたが、いずれも期初の想定より良化しました。

中間配当につきましては、未だ欠損状態でありますので、誠に遺憾ではございますが見送らせていただきますと存じます。株主の皆様には誠に申し訳なく、心よりお詫び申し上げます。

下期以降につきましても、事業環境は依然として不透明な状況で推移することが想定されますが、上期に引き続き材料調達や原材料価格の変動などの外部環境の変化に対応できる経営基盤をさらに強化するとともに、高付加価値・環境負荷が低い製品開発の強化、新製品および新市場の開拓、全社DXプロジェクトの推進による生産効率UPやコスト競争力のさらなる改善を実行してまいります。加えて次世代電池の開発およびビジネスプランの策定をさらに加速させるとともに、ニッケル亜鉛電池については今後、設備の増強を進め、お客様へのサンプル出荷を拡大するとともに、引き続き実機による耐久性確認を進めてまいります。また、もう一つの柱である「認め合い・高め合う文化の醸成」に努めることで企業文化・風土の変革に繋げ、経営品質の向上に努めてまいります。そして「進化に挑戦 輝く未来と笑顔のために」という経営理念のもと、全てのステークホルダーに満足いただく「And Game」の実現のため、企業価値を向上させてまいります。
株主の皆様におかれましては、今後とも引き続き当社グループをご支援賜りますようお願い申し上げます。
※Bluetooth®ワードマークは、Bluetooth SIG, Inc.が所有する商標です。



代表取締役社長
長野 良

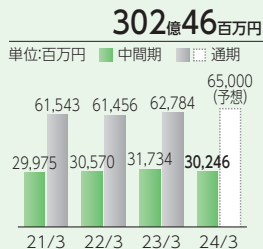
Profile プロフィール

1961年 9月 7日生まれ
1985年 4月 富士通(株)入社
2019年 4月 当社執行役員常務
2019年 6月 当社代表取締役社長

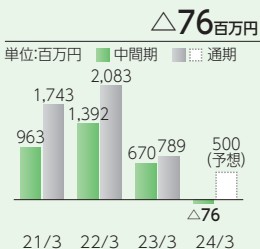
2023年12月

連結決算ハイライト

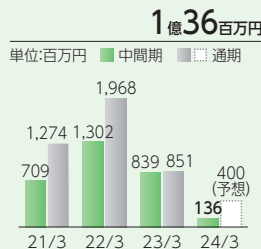
売上高



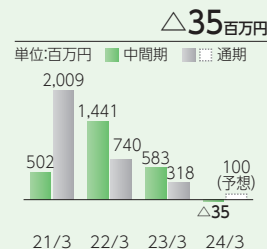
営業利益
又は営業損失(△)



経常利益



親会社株主に帰属する中間(当期)純利益又は
親会社株主に帰属する中間(当期)純損失(△)



事業別の概況

電池事業

電池事業の売上高は、ニッケル水素電池が減少したものの、リチウム電池と設備関連ビジネスが増加したことにより、前年同期を上回りました。

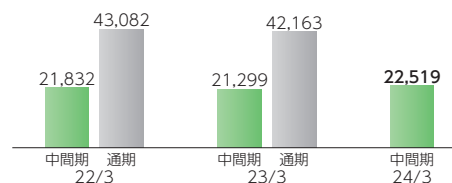
製品別につきましては、リチウム電池は、国内外のセキュリティ・スマートメータ用途向けが堅調に推移したことや円安効果も加わったことにより、前年同期を上回りました。設備関連ビジネスは、販売機種の変化などにより、前年同期を上回りました。ニッケル水素電池は、販売価格の見直しや円安効果があったものの、国内の市販用途向けや海外の工業用途向けでの在庫調整や所要減により、前年同期を下回りました。アルカリ乾電池は、前年同期並みとなりました。

その結果、当事業全体の売上高は、前年同期に比べ12億19百万円増の225億19百万円となりました。

売上高構成比

74.4%
(22,519百万円)

売上高 単位:百万円



電子事業

電子事業の売上高は、スイッチング電源が増加しましたが、各種モジュールが減少したことや前期に実施したコイルデバイスの事業譲渡などにより、前年同期を下回りました。

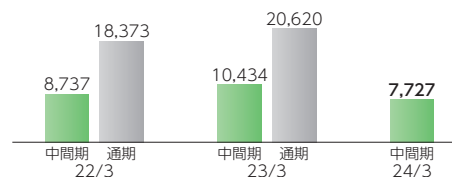
製品別につきましては、各種モジュールは、モビリティ・タブレット用途向けが減少したことにより、前年同期を下回りました。スイッチング電源は、半導体装置用途向けが堅調に推移したことにより、前年同期を上回りました。

その結果、当事業全体の売上高は、前年同期に比べ27億7百万円減の77億27百万円となりました。

売上高構成比

25.6%
(7,727百万円)

売上高 単位:百万円



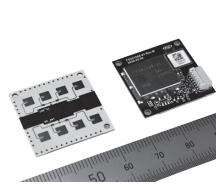
FUJITSUアルカリ乾電池

FUJITSU充電式電池



ニッケル水素電池

リチウム電池



移動体検知モジュール



トナー

トピックス

ミニ四駆ジャパンカップ2023 大会公式乾電池でサポート

当社は、模型メーカーの株式会社タミヤが主催するミニ四駆日本一決定戦「Powered by FDK ミニ四駆ジャパンカップ2023 Drive on ヨコハマタイヤ」の大会スポンサーとして2023年もサポートしました。

ミニ四駆ジャパンカップは1988年の初開催から今年で35年目を迎えたミニ四駆のビッグタイトルで、2023年7月から全国各地11会場、17の予選大会を順次開催し、10月29日にチャンピオン決定戦が実施されました。2023年の大会公式コース「バニーホップ アメイジング サーキット 2023」は、「FDK ローリングフォール リフレクト」（左回りのスロープ状コーナー）をはじめ、そのコース名称のとおりバニー（ウサギ）が飛び跳ね回るような激しいジャンプや下りセクション、コーナーが配置された全長約188mの「ミニ四駆ジャパンカップ」にふさわしいスペシャルコースで、全国各地のミニ四駆レーサーが挑戦しました。

当社製アルカリ乾電池は、その高い性能と信頼性で、ミニ四駆競技大会の公式乾電池に長年指定されている唯一の乾電池です。一人ひとりのレーサーが情熱を込めてつくり上げたミニ四駆をしっかり支えるパワーであり続けるために、乾電池のさらなる性能と品質の向上に努めてまいります。

※ミニ四駆は株式会社タミヤの登録商標です。



大会シンボルマーク 2023年大会コース「バニーホップ アメイジング サーキット 2023」



大会ロゴ



ミニ四駆ジャパンカップ2023公式乾電池

世界最小「Bluetooth® Low Energyモジュール」の製品化・サンプル出荷を開始

当社と株式会社東芝は、東芝が独自のSASP® (Slot Antenna on Shielded Package) 技術を用いて開発した世界最小の「Bluetooth® Low Energyモジュール」の技術ライセンス契約を締結し、2023年10月より国内の一部の顧客向けにサンプル出荷を開始いたしました。

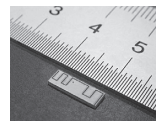
世界最小の「Bluetooth® Low Energyモジュール」は、2021年に東芝が開発した後、東芝が持つアンテナ設計技術と当社の高密度実装技術、小型シールド樹脂印刷技術を持ち寄り、両社共同で内蔵メモリ容量を拡大しながらモジュールサイズを2021年の開発時からさらに小型化することに成功しました。

当社は電子部品製造の豊富な経験を活かした量産体制を構築し、受注対応から製品供給、品質保証まで、全てのお客様へのサポートに対応してまいります。

※世界最小は、アンテナ付きシールドタイプ 32kHz/32MHz 水晶振動子内蔵モジュールとして（2023年9月1日現在FDKと東芝調べ）。

※SASP®は株式会社東芝の登録商標、SASP技術は株式会社東芝の特許技術です。

※Bluetooth®ワードマークは、Bluetooth SIG, Inc.が所有する商標です。



4月

5月

6月

7月

8月

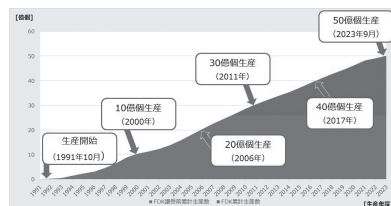
9月

ニッケル水素電池生産工場 累計生産数50億個達成

当社高崎工場（群馬県高崎市）で生産しているニッケル水素電池の累計生産数が、2023年9月に50億個を達成しました。

高崎工場は、1991年10月にニッケル水素電池の生産を開始して以来、性能や品質の向上に加え、2010年には太陽光発電の電力を電池の初期充電や工場内で使用するなどの環境活動の取り組みをグループ内で先駆けて開始したほか、環境温度や耐用年数などの条件で実現が難しかった車載通信機バックアップ用途への参入や、太陽光発電で充電した電池を音響機材の電源として使用する音楽ライブの協賛など、様々な取り組みを続けております。ニッケル水素電池の特長、性能、高品質をご評価いただき、2023年9月に累計生産数50億個を達成することができました。

当社のニッケル水素電池は、様々な用途において安心・安全にお使いいただけるよう国内生産にこだわり、精密さや丁寧さを誇る日本のものづくりによって高品質を実現しています。また、SDGsの観点からもリサイクル性が高い充電式電池として世界的にも注目が高まっており、2029年までに次の目標である累計生産数60億個を目指してまいります。



累計生産数の推移



ニッケル水素電池



高崎工場

■ 連結財務の概況

■ 中間連結貸借対照表

(単位：百万円)

科目	当中間期末 (2023年9月30日現在)	前期末 (2023年3月31日現在)
資産の部		
I 流動資産 1	33,594	31,822
II 固定資産	15,153	15,307
（有形固定資産）	14,292	14,478
（無形固定資産）	388	412
（投資その他の資産）	472	415
資産合計	48,747	47,130
負債の部		
I 流動負債	31,853	30,928
II 固定負債	2,813	3,005
負債合計	34,666	33,933
純資産の部		
I 株主資本	12,733	12,769
資本金	31,709	31,709
資本剰余金	26,225	26,225
利益剰余金	△45,149	△45,114
自己株式	△50	△50
II その他の包括利益累計額	1,340	420
その他有価証券評価差額金	50	34
為替換算調整勘定	2,555	1,825
退職給付に係る調整累計額	△1,264	△1,439
III 非支配株主持分	6	6
純資産合計 2	14,080	13,196
負債純資産合計	48,747	47,130

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨ててにより表示しております。

POINT

1 流動資産

流動資産は、前期末に比べ17億71百万円（5.6%）増の335億94百万円となりました。その主な要因は、未収入金などのその他流動資産が減少した一方、受取手形及び売掛金が20億40百万円増加したことや、商品及び製品、仕掛品、原材料及び貯蔵品などの棚卸資産が3億93百万円増加したことによるものです。

2 純資産合計

純資産合計は、前期末に比べ8億84百万円（6.7%）増の140億80百万円となりました。その主な要因は、親会社株主に帰属する中間純損失の計上により利益剰余金が35百万円減少する一方、為替換算調整勘定が7億29百万円、退職給付に係る調整累計額が1億74百万円それぞれ増加したことによるものです。

■ 中間連結損益計算書

(単位：百万円)

科目	当中間期 (2023年4月1日から 2023年9月30日まで)	前中間期 (2022年4月1日から 2022年9月30日まで)
売上高	30,246	31,734
売上原価	25,710	26,408
売上総利益	4,535	5,325
販売費及び一般管理費	4,612	4,654
営業利益又は営業損失(△)	△76	670
営業外収益	291	356
営業外費用	78	187
経常利益	136	839
特別利益	128	200
特別損失	57	44
税金等調整前中間純利益	207	994
法人税、住民税及び事業税	242	214
法人税等調整額	0	196
中間純利益又は中間純損失(△)	△35	584
非支配株主に帰属する中間純利益又は 非支配株主に帰属する中間純損失(△)	△0	0
親会社株主に帰属する中間純利益又は 親会社株主に帰属する中間純損失(△) 3	△35	583

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨ててにより表示しております。

■ 中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

科目	当中間期 (2023年4月1日から 2023年9月30日まで)	前中間期 (2022年4月1日から 2022年9月30日まで)
I 営業活動によるキャッシュ・フロー 4	△314	1,416
II 投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,383	△1,065
III 財務活動によるキャッシュ・フロー	1,582	△573
IV 現金及び現金同等物に係る換算差額	186	252
V 現金及び現金同等物の増減額	70	30
VI 現金及び現金同等物の期首残高	2,571	2,763
VII 現金及び現金同等物の中間期末残高	2,641	2,793

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨ててにより表示しております。

POINT

3 親会社株主に帰属する中間純損失

経費削減や販売価格の見直し、為替による利益増があったものの、ニッケル水素電池および電子事業の売上減や原材料価格高騰の影響が大きく、営業損失は前年同期に比べ7億47百万円悪化の76百万円となりました。また、固定資産除却損や法人税等調整額の減少があったものの、補助金収入や為替差益の減少により、親会社株主に帰属する中間純損失は前年同期に比べ6億19百万円悪化の35百万円となりました。

4 営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前中間純利益2億7百万円や減価償却費12億2百万円の計上、未収入金の減少5億6百万円などによる資金の増加はありましたが、売上債権の増加13億74百万円や仕入債務の減少5億40百万円などによる資金の減少により3億14百万円の資金減少となりました。

FDKグループの概要

2023年9月30日現在

FDKグループは、各種一次・二次電池および蓄電デバイスならびにエレクトロニクス関連の素材・部品とそれらの応用製品・応用装置の製造および販売を主な事業としております。

FDKグループの主要拠点

※工場・生産会社の [] 内は、主要生産品目です。

● 当 社

本 社

◆東京都港区港南一丁目6番41号

工 場

A 湖西工場 [トナー]

B 高崎工場 [ニッケル水素電池、蓄電システム]

C 鳥取工場 [リチウム電池]

D 鷺津工場 [アルカリ乾電池]

営 業 所

①札幌営業所

②仙台営業所

③首都圏営業所

④名古屋営業所

⑤大阪営業所

⑥広島営業所

⑦福岡営業所

● 当社グループ

国内生産会社

① (株) FDKエンジニアリング [各種製造設備]

海外生産会社

① XIAMEN FDK CORPORATION

中国・廈門 [スイッチング電源、各種モジュール、
ニッケル水素電池・リチウム電池のパック電池]

② FUCHI ELECTRONICS CO., LTD.

台湾・桃園 [各種モジュール]

海外販売会社

FDK AMERICA, INC.

① 米国・サニーベール

② 米国・ダラス

FDK SINGAPORE PTE LTD

③ シンガポール

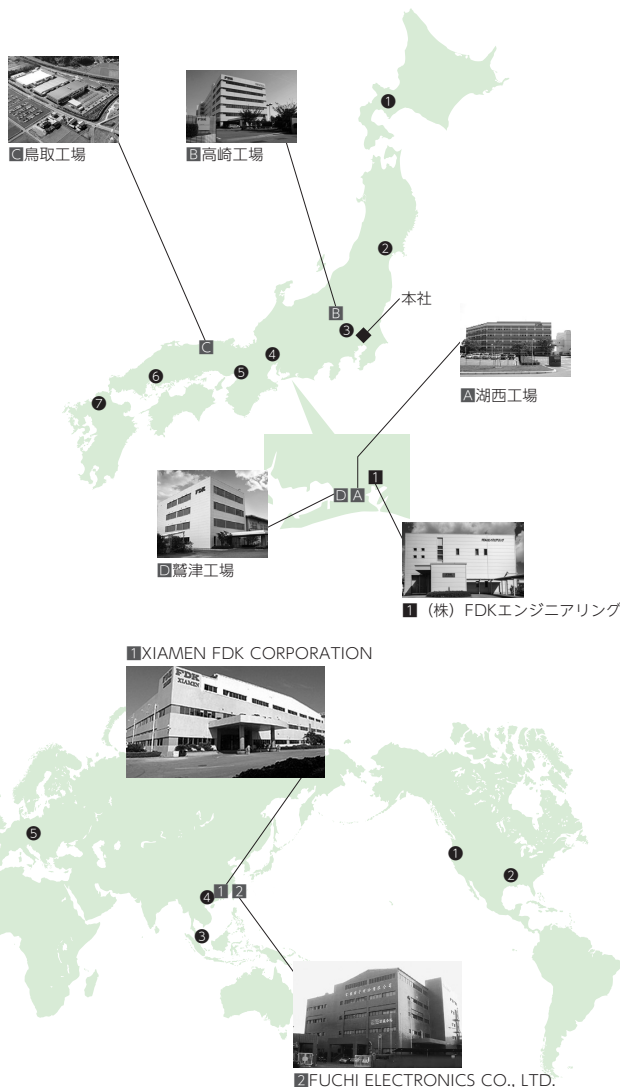
FDK HONG KONG LTD.

④ 中国・香港

FDK ELECTRONICS GMBH

⑤ ドイツ・ミュンヘン

(ほか、連結子会社1社)



会社および株式の概要 2023年9月30日現在

■商号 FDK株式会社

(英文社名：FDK CORPORATION)

■設立 1950年(昭和25年)2月7日

■資本金 31,709,007,153円

■従業員数 1,611名 [FDKグループ：2,415名]

■主要製品

電池事業 アルカリ乾電池、ニッケル水素電池、リチウム電池、マンガン乾電池、蓄電システム、各種強力ライト、各種製造設備

電子事業 スイッチング電源、トナー、各種モジュール

■役員

●取締役

地位	氏名
代表取締役社長	長野 良
取締役	平野 芳晴
取締役	村嶋 純一
取締役	石原 淳児
監査等委員である取締役	渡辺 伸之
監査等委員である取締役	藤原 正洋
監査等委員である取締役	栗津 瑞恵

- (注) 1. 取締役村嶋純一、監査等委員である取締役藤原正洋および栗津瑞恵の各氏は、会社法第2条第15号に定める社外取締役であります。
2. 監査等委員である取締役渡辺伸之氏は、常勤監査等委員である取締役であります。

■発行可能株式総数

株式の種類	発行可能株式総数
普通株式	51,000,000株

■発行済株式の総数および株主数

株式の種類	発行済株式の総数	株主数(前期末比)
普通株式	34,536,302株	16,598名(109名減)

■大株主

株主名	当社への出資状況	
	持株数(千株)	持株比率(%)
富士通株式会社	20,295	58.82
MSIP CLIENT SECURITIES	1,625	4.71
野村證券株式会社	395	1.15
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	279	0.81
J P モルガン証券株式会社	262	0.76
上田八木短資株式会社	200	0.58
FDK取引先持株会	145	0.42
田中 隆士	140	0.41
田中 章吾	125	0.36
西村証券株式会社	109	0.32

- (注) 1. 持株数は、千株未満を切り捨ててにより表示しております。
2. 持株比率は、自己株式(30,420株)を控除して計算しております。

■所有者別株式数分布状況



株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで	(電話照会先)	電話 0120-232-711 (通話料無料)
定時株主総会	毎年6月	公告方法	電子公告
議決権の基準日	毎年3月31日		当社は公告を下記ホームページに掲載しております。
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社		https://www.fdk.co.jp/kessan-j/index.html
特別口座の 口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社		ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行ないます。
郵便物送付先	〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部		

株式が「特別口座」に眠っていませんか？

1. 「特別口座」について

2009年1月に法令により株券の電子化が実施されましたが、その際、証券会社の口座に預けられていなかった当社株式については、現在、三菱UFJ信託銀行にある「特別口座」で管理されています。制度上、「特別口座」に管理されているままでは、証券市場で株式を売買することができない等の制約がございます。ご所有の株式が「特別口座」で管理されている株主様におかれましては、証券口座への振替をお願いいたします。

お心当たりございませんか？

- お手元に株券がある
(証券会社に株式を預けていない)
- 配当金のご連絡通知に記載されている株式数と、証券会社に預けている株式数が一致しない

お心当たり
ございましたら

株式が
「特別口座」で
管理されている
可能性が
ございます

◆ ご所有の株式が「特別口座」で管理されているかご不明な株主様は、三菱UFJ信託銀行証券代行部 ☎0120-232-711) までお問い合わせください。
(受付時間：土・日・祝祭日等を除く平日9：00～17：00)

2. 「特別口座」にある株式の証券口座への振替方法

証券会社に口座を開設する。

すでに証券会社に株式の取扱いができる口座をお持ちであれば、新たに開設いただく必要はありません。

三菱UFJ信託銀行に振替用の請求用紙 「口座振替申請書」を請求する。

請求用紙に必要事項を記入・押印して 三菱UFJ信託銀行に送付する。

これで手続きは完了です。
証券会社の口座に株式が振替われます。

単元未満株式の買取請求のご案内

当社の単元株式数は100株となっておりますので、単元未満株式（1～99株）については、市場で売買することができませんが、当社に対して買取請求を行なうことができます。

● 買取制度の例（60株ご所有の場合）

現在ご所有の単元未満株式

60株
(単元未満株式)

買取請求制度

当社株式60株を市場価格で当社へ売却し、
代金を受領する。

60株
(単元未満株式)

¥ ¥ ¥

当社ホームページ

<https://www.fdk.co.jp/>

当社IR情報

<https://www.fdk.co.jp/kessan-j/index.html>

